

私は、三回分の授業をDVDでもう一度見たときに、客観的に見ることで、自分では分からない反省点が発見できた。自分の直していきたいところや良さに気付く事で授業をよりいいものにしていけると私は考えている。授業を行うことについて最初はスムーズに行えるか、緊張して授業が止まりそうだと考えていた。授業を行っていく中で、「日本にいて使える日本語」を考えることで、どんな日本語を使ったらいいかについてのアドバイスを、ロールプレイ後に徐々に教えられるようになってきたかなと思う。後期の授業では、一人で学習者に教えていくので、練習して頑張りたい。日本語を学ぶために授業を受けにきている留学生なので、どういう日本語がこれから使える言葉なのかを考え、日本の文化とともに、授業を通して生徒に伝えていきたい。

一回目の授業では、音声指導を行った。緊張がほぐれないままの授業であった。反省点は以下のとおりである。

- a. 私自身が早口になっていたり口が動いていなかったりしていたので、発する言葉がはっきり聞こえるように日々意識していきたい。
- b. 最初の問題の○か×で答える問題では、解答を黒板に書くことで間違いをすぐ確認できると思った。
- c. CDを流す時に、違うボタンを押して無駄な時間を使ってしまったことがあった。押す所を予め確認して、スムーズに授業が進むようにしなければならない。
- d. 学習者 A さんが「青かったです」のアクセントが間違っていたのを直すことが出来なかったもので、注意して聞かなくてはならない。
- e. 学習者 B さんの「～かった」の小さい「っ」に違和感があったがそのままにしてしまった。読んで後に続けて言ってもらうことも練習になると思った。
- f. CDを聞いて読んだ後に一人ずつ読む場面で、学習者 A さんの後に学習者 B さんが読んだ後違う文を読ませたかったが、次々に交代で読み進めていった。一言言った後に言えているかの評価をするためしっかりと指示を出し、理解したか確認を取るべきだ。
- g. イントネーションによってメッセージが変わる練習のところで、嫌そうに感じる文を実習生 C さんと二人で演技したとき「えっ？宿題ですか？」はもっと嫌そうな顔をして分かりやすくすべきだった。実習生 C さんが言葉で説明してくれたおかげで学習者は分かってくれたと思うが、初級の学習者にとって長い説明文では理解しづらい部分が出てくると思うので、思いきりのあるジェスチャーや演技ができるように練習しようと思う。演技するときは、オーバーにして恥を捨てることが大事だと授業を通して気づくことが出来た。

二回目の授業ではロールプレイをした。反省点は以下のとおりである。

- a. スポーツの導入で「テニスが好きです。」と答えてくれたのだが、それへの反応が薄か

った。「へえ、すごいですね」等の共感をもってきていると思う言葉をかけて、もっと話が弾む会話をするのでロールプレイの練習へ切り替えることができたと思った。

- b. 導入とロールプレイに行くとき間が空いたのでテンポよく行うことが大事だ。
- c. スポーツについてのロールプレイでA・Bさんの説明をしたときに、内容は理解してくれたが、不安そうにしていた自分がいて、それが学習者にも伝わっていたなと感じた。学習者の目を見て話したり、恥ずかしがらずに声を張ったり自信があるようにすることを意識したい。
- d. ロールプレイのフィードバックでは、正しいか迷っていたことが原因で間違いを見つけるのがうまくできなくて沈黙の時間があつたので、早く見つけられるように努力したい。
- e. 授業が時間通りに終わらなかったなので時間の使い方にも注意したい。

三回目の授業では音声指導とロールプレイを行った。反省点と嬉しかった点は以下のとおりである。

- a. 音声指導の時に「カーテン」のアクセントの書き方が分からなかった。問題に出てくる単語や文のアクセントの確認をしておくことが大事だ。
- b. ロールプレイのA・Bさんの説明をしたときに、絵や演技があると分かりやすかったと思った。
- c. また実習生Cさんに頼ってしまったので、迷惑をかけないように臨機応変な対応が出来るように頑張りたい。
- d. ロールプレイの後に与えたフィードバックが曖昧だった。ことばを導入するのであれば、その正確な意味だけでなく、どういうときに使うかを分かりやすく説明する必要がある。
- e. 間違っているところと正しい文を書いたが、まとまっていなかったので構成を考えながらノートを取ってくれるようにしたい。
- f. 嬉しかったことは、(1) ロールプレイの導入やフィードバックで文法や文化や単語を教えるとき、生徒がどんどん発言していてより授業がやりやすくなったこと、(2) 分からないところを聞いてくれる雰囲気を作っていたことだった。
- g. 「うっかり・つい・思わず」についての説明が、自分の演技で分かってもらえた。
- h. 学習者も分からないところがあったら聞いていた場面もあったので、教材の準備をすることで興味を持たせるような授業を考える必要があると思った。

後期の授業では、以下のことにチャレンジしたい。

- a. 学習者数は多いと思うし、前期よりは、分かりやすい日本語で説明する事が必要にな

ってくるので、はっきりと聞こえるように自信を持って授業を行っていきたい。

- b. 問題や言葉などの説明をする時は、自分の方を見てくれるように「こっち見てください」「いいですか」等と言って、全学習者が教師の方を見て説明を始めたい。
- c. 授業中に出そうな質問想定し回答を準備してから授業に臨みたい。考えていなかった質問が急にくるかもしれないが、その時はジェスチャー交えながら対応したい。
- d. 背筋を伸ばすことを意識して、教師としての立ち姿をよくしたい。
- e. 少しでも緊張を和らげるために、最初から声を出して不安な気持ちを少しでもなくし、授業の雰囲気を変えていきたい。
- f. 学習者が興味を持って授業を受けている積極的な姿勢が見られるように、教材づくりや教案に力を入れてそして練習をして自信を付けたい。
- g. 人前で話すことが苦手なので、自分自身が変われるように授業の雰囲気を掴むため一方通行の授業ではなく、学習者が発言するとき、聞く時間などメリハリをつけた授業をしたい。
- h. 分かりやすい説明が出来るように、日本語の勉強をして、納得してもらえそうな日本語力を身につけたい。